

鳥取市庁舎の整備について、旧市立病院跡地（鳥取市幸町）に施設を新築する「基本的な考え方」を示した竹内功市長が12日、北村弘一・鳥取支局長とのインタビューに応じた。今後の事業の基本となる「全体構想」は現実的には12月議会までの提示が考えられ、竹内市長は「なるべく早期に」と述べた。一方、新築施設について防災機能と市民サービス窓口を集約した「防災市民サービスセンター」として想定し、現在の本庁舎は現在地に残した上で活用する考えを示した。【まとめ・高嶋将之】

◇現本庁舎「残し活用」

—住民投票の結果とは異なる判断に戸惑いがある。「耐震改修」でも「新築移転」でもない方針の提示は、市民に対する信義としてどうかとも思う。

◆住民投票そのものについては「費用をできるだけ抑制してほしい」との市民の思いと受け止めている。全体構想で具体案を示したい。現時点では、市民の声に耳を傾け、機能とコストの両面で、最適な提案として全体構想をまとめたい。なし崩し的にするものではない。「耐震改修」「新築移転」の二元論にとられるのではなく、議論してほしい。

—合併特例債期限（2019年度）の事業終了を考慮すれば、かなり作業を急がなければならない。どんな工程を想定しているか？

◆現在の「（考え方の）たたき台」から、「基本方針案」というものになり、それが（7月に市民を対象に開く）説明会で出され、最終的に推進本部が全体構想を取りまとめる。これを基に事業化できるものから進める。9月、12月の定例会の機会をにらみながら、できるだけ早くやりたい。市庁舎については、市民の関心事であり、それぞれのプロセスで情報発信していく。

—全体構想の提示時期ははっきり示したほうがいいのか？

◆私の気持ちは、できるだけ早くということ。自分の任期も分からずに仕事している訳ではない。任期は来年4月半ばまで。「まとめます」といっている以上、責任を持ってまとめたいという気持ちだ。政治家として、当然求められている。

—新庁舎と、既存庁舎のイメージはどう描いているか？

◆新庁舎は例えば「防災市民サービスセンター」という施設が考えられる。新築の施設を防災と市民サービスの拠点として整備するというイメージだ。現在の本庁舎の売却は考えられない。駐車場も（市中心部の）必要なスペース。この場所で耐震改修の形で整備するのか、あるいは別の用途で使うのが地域にとってふさわしいかということも、議論されなければならない。また第2庁舎については、スーパーマーケット、高齢者用のマンション、デイサービス施設など民間の利用に生まれ変わる可能性が大いにある。庁舎としての利用は考えていない。

—本庁舎機能はどこに置くのか？

◆防災と市民サービスの充実強化のため、旧市立病院跡地の新庁舎に市民サービスの窓口機能は集約される。であれば、駅南庁舎に今現在ある多くの市民サービス窓口が空くことが考えられる。そこに入れる部分が必ず出てくる。本庁の建物をもどのようにするのかは、「考え方」ではまだ明かされていないが、全体構想では、一目で分かるようになる。

◇聞いて一言

竹内市長の「考え方」は新庁舎の役割や、既存庁舎の活用など、現段階ではわかりにくさが否めない。今後、市民説明会などの機会に必要な情報を示し、理解を求める方針だが、迅速かつ丁寧な手法が求められる難しいかじ取りが求められる。市民理解を進める手法に注目し、報道機関としてチェックしていきたい。【北村弘一】